

# 令和4年度全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 葛原 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数、理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語、算数、理科)

| 教科に関する調査(国語、算数、理科)  |
|---|
| ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等<br>②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容 |

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

| 児童質問紙調査                       |
|-------------------------------|
| ○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 |

### 3. 教科に関する調査結果の概要

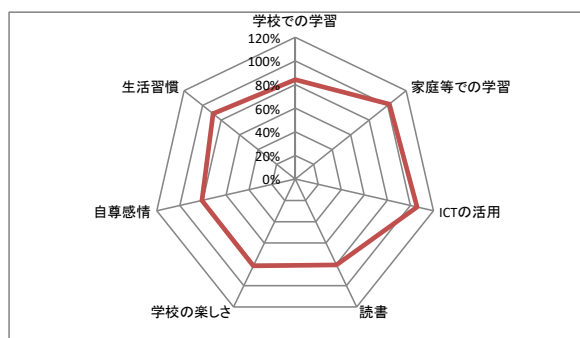
#### (1) 全国・本市の学力調査(国語、算数、理科)の結果

| 本年度の結果 | 国語    |       | 算数    |       | 理科    |       |
|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
|        | 平均正答数 | 平均正答率 | 平均正答数 | 平均正答率 | 平均正答数 | 平均正答率 |
| 本市     | 8.9   | 64    | 9.8   | 61    | 10.4  | 61    |
| 全国     | 9.2   | 66    | 10.1  | 63    | 10.8  | 63    |

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

|    |             |   |                       |
|----|-------------|---|-----------------------|
| 国語 | 全体的な傾向や特徴など | ・全体的には全国平均正答率を下回っていた。<br>・自分の考えを整理して書く問題に課題があり、普段から筋道を立てて自分の考えをまとめる学習などを習慣化する必要がある。 | 全国平均正答率との比較<br>下回っている |
|    | よくできた問題     | 互いの立場や意図を理解しながら、計画的に話し合い、自分の考えるまとめる問題の正答率は高かった。                                     |                       |
|    | 努力が必要な問題    | 言葉の働きについて捉え、自分の考えを整理して書く問題について課題がある。  |                       |
| 算数 | 全体的な傾向や特徴など | ・全体的には全国平均正答率を下回っていた。<br>・数量や図形について思考・判断・表現することに関する問題に課題がある。                        | 全国平均正答率との比較<br>下回っている |
|    | よくできた問題     | 示された場面において、目的に合った数の計算の仕方を考える問題の正答率は全国平均と同程度だった。                                     |                       |
|    | 努力が必要な問題    | 最小公倍数を求める問題や図形の意味や性質について考える問題等に課題がある。   |                       |
| 理科 | 全体的な傾向や特徴など | ・全体的には全国平均正答率を下回っていた。<br>・実験の結果を分析し、自分なりにまとめる問題に課題がある。                              | 全国平均正答率との比較<br>下回っている |
|    | よくできた問題     | 生き物の体のつくりについて答える問題の正答率は高かった。  |                       |
|    | 努力が必要な問題    | 与えられた情報と自分の経験を基に実験方法を工夫したり、実験や観察した結果を分析したりして、自分の考えをまとめる問題に課題がある。                    |                       |

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



| 質問紙調査の結果分析  |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・家で、自分で計画を立てて勉強をしている児童の割合は全国平均を上回った。</li> <li>・GIGA端末を活用した学習に取り組む割合は全国平均よりも高かった。</li> <li>・スマートフォンなどを含めたゲームをする児童の割合が昨年度よりも増加した。</li> <li>・スマホ・携帯電話等で1時間以上、動画視聴をする割合は全国平均よりも高かった。</li> <li>・将来の夢や目標をもっている児童の割合は全国平均より低かった。日頃から夢を抱くために、具体的な目標をもたせる機会を設定する必要がある。</li> </ul> |

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組

・国語については、MIMやコグトレ、音読などを行うことで、書く力や認知力を高める学習に取り組んでいる。  
 ・算数については、朝の学習で、基礎的・基本的な内容の定着を図るためのプリントなどを活用して学習している。  
 ・感染症対策を講じながら1時間の学習の中で、学び合う時間を設定し、伝え合う力を高めている。また、必要に応じてGIGA端末を活用している。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

各学年の実態に応じて、宿題に自主学習を取り入れている。中学年以上は自主学習ノートを用意し、継続的に自主学習を行い、家庭学習の充実を図っている。また、「家庭学習チャレンジハンドブック」を活用し、自主学習の方法を指導している。学期に1回、自主学習コンテストを行い、全校で取組の参考となる自主学習ノートを紹介している。